

「平成29年度『学びのスタンダード』推進事業」の推進地域の取組

パイロット校名	埴町立埴中学校、埴小学校
推進協力校名	埴町立常豊小学校、笹原小学校

埴はひとつ！ ～オール埴でスタンダード推進～

埴町では、町内全ての小・中学校が、パイロット校あるいは推進協力校として、「『学びのスタンダード』推進事業」に取り組んだ。町を挙げて、この事業に取り組んできた。

1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

(1) 校内研修での活用

学校課題研究に取り入れ、学習指導案の中に「授業スタンダード」との関連を位置付け、「授業スタンダード」に基づいた、学習過程や手だての工夫等を明記した。

「授業スタンダード」に示されている「子どもの姿」をもとに、目指す児童生徒の姿のイメージ化を図った。

教科部会での話し合いのテキストとした。

(2) 日々の授業等での活用

職員室の廊下に掲示し、教室に向かう途中に確認できるようにした。



【職員室廊下への掲示】

2 パイロット校の取組内容

(1) パイロット校Ⅰ（埴中学校）における「タテ持ち」の取組

数学科において、「タテ持ち」とTT形式を組み合わせるなど、指導体制を工夫した。

具体的には、以下のような指導体制をとった。（推進教師＝A先生）

C先生	3-1※3	3-2	3-3	※3 A・C先生によるTT（毎回実施） ※2 A・B先生によるTT（毎回実施） ※1 教頭によるTT（週2回実施）
B先生	2-1※2	2-2	2-3	
A先生	1-1※1	1-2※1	1-3※1	

(2) パイロット校Ⅱ（埴小学校）における「教科担任制」の取組

国語科では、教師の授業力向上をねらいとした。また、社会科、外国語活動では、教員の専門性を生かし、児童の学力向上をねらいとした。

具体的には、以下のような指導体制をとった。

教科等	担当教員	対象学年	方法等
国語科	推進教師	全学年	単元や指導段階ごと担任とTT
社会科	教務主任	6学年	社会科専門の教師
外国語活動	専科教師	全学年	ALTも配置

(3) 推進教師の役割と具体的な取組

- ① パイロット校Ⅰ（埴中学校）・・・研修主任を兼任し、以下の取組を行った。
- 「タテ持ち」授業の実践
 - 共通の評価を行うための「単元マップ」の作成
 - 共通理解・実践を図るためのアンケートの集計・考察
 - 指導力の向上のための指導案の確認（「授業スタンダード」との関連付け）
 - 年次目標（目指す生徒の姿・教師像）の設定
- ② パイロット校Ⅱ（埴小学校）・・・研修主任を兼任し、以下の取組を行った。
- 各クラスで担任とのTT実践（教科担任制の推進）
 - 「授業スタンダード」に基づいた授業実践への支援
 - 「研修だより」の発行
 - 校内研修の活性化

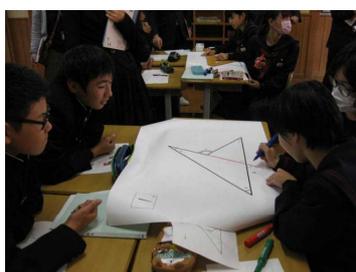
(4) 推進地域授業研究会の開催

- ① パイロット校Ⅰ（埴中学校） 平成29年11月15日（水）

午後から半日の研究公開を開催した。約50名の教師が参加し、社会科1学年および数学科2学年で研究授業を実施し、教科毎に研究協議会を行った。研究協議会では、県教育庁義務教育課指導主事より指導助言を受けた。



【社会科研究授業】



【数学科研究授業】



【義務教育課指導主事による講評】

- ② パイロット校Ⅱ（埴小学校） 平成29年11月21日（火）

午前中から午後までの日程で、全学級において研究公開を開催した。約100名が参加し、国語科および算数科で研究授業を実施した。全ての研究授業終了後、ワールドカフェ方式で感想交流会を行い、参観者の意見を交流させた。また、義務教育課指導主事、県南教育事務所指導主事等による『授業スタンダード』が目指すものをテーマとした座談会を行った。



【算数科研究授業】



【感想交流会】



【座談会】

3 推進協力校の取組内容

(1) 常豊小学校の取組

「ユニバーサルデザインを生かした教科指導 ～学び合い・伝え合い～」という研究主題で校内研修を行った。すべての児童が「できる・わかる」と感じることでできる授業づくりを目指し、自律的に学習する児童の育成を目指した。常に「授業スタンダード」を手元に置き確認しながら、授業研究に取り組んだ。



【常豊小 授業研究会】

推進協力校として、2学年算数科及び5学年国語科で授業を公開し、町内全ての小学校教員および中学校教員数名の参加による授業研究会を開催した。

(2) 笹原小学校の取組

「言語を手がかりに、主体的に読み、適切に表現しようとする子どもを育てる授業づくり」という研究主題を設定し、国語科に重点をおいて校内研修を進めてきた。

「授業スタンダード」の「教師の働きかけ」や「指導技術」を参考にしながら、授業づくりに取り組んだ。



【笹原小 授業研究会】

推進協力校として、2学年及び6学年で授業を公開し、町内全ての小学校教員および中学校教員数名の参加による授業研究会を開催した。

4 成果と次年度へ向けて

(1) 成果

- 「授業スタンダード」との関連を図った授業研究を進めることにより、学習過程や手だての工夫など、主体的・対話的で深い学びに迫るための授業改善のポイントが明確になってきた。
- 教科や学年の枠を超えて、授業について話し合う機会が増えたり、話し合いのコーディネートを意識した授業改善への試みが見られたりするなど、教師の授業づくりへの意識の変化が見られた。
- アンケート調査の結果、「粘り強く考えることができる」「考えや意見を説明することが得意」「学習は大切だ」「今以上に勉強したい」と回答する児童や生徒が増えるなど、児童や生徒の学習に対する意識の変化が見られた。

(2) 次年度へ向けて

- 「タテ持ち」や「教科担任制」の実施など、効果的な指導体制の確立を図る。
- 校内研修及び学力向上へのサイクルの確立を図る。
- 「家庭学習スタンダード」を活用した指導の充実を図る。

チームHANAWA

NO. 2

文責： 研修主任

子ども達一人一人に確かな学力を・・・

「学びのスタンダード」2つのパイオニア授業から

ゴールデンウィークが終わり、運動会に向けた練習が本格的に始まりました。先生方、毎日お疲れ様です。4月28日（金）と5月2日（火）に行われた授業研究会では、それぞれ子ども達の学びの様子を中心に研究協議会を行いました。「学びのスタンダード」についても概要説明をしていただき、全員が同じスタートラインに立って、今年度の研修をスタートさせることができました。2つの授業から見えてきたことをまとめます。毎日の授業で意識していけたらと思います。

めざすは、「一人一人の子に確かな学力を」と「本気で考える深い学び」です。

「まとめ」でめざす子どもの姿 - 学習したことを表出させる -

「授業の最後に、どんなまとめを書かせたいか、そのためには授業で何をすべきか」一時間ごとに身に付けさせたい力をより焦点化していく必要を感じました。一年間の学習や六年間の系統を考えて、一時間ごとのねらいを教師がはっきり意識して、毎日の授業を積み上げていけたらと思います。

「何を学習したか」子ども達が言えること、自分の言葉でまとめに書くことができるようにすることを目指します。



既習事項を生かして 課題を解決する

「今日の課題を解くために、子ども達にはどんな既習事項（道具）を使わせるか」「その既習事項は、何年生で学習して、どれだけ身に付いているか」子ども達の学力の実態と学習の系統を考えて、授業を進めなければと感じました。

新しい単元に入る前に、学年で話題にして一緒に教材研究をするのもいいですね。

考える 考える 本気で考える・・・深い学びへ

授業で子ども達が本気になったときこそ、たくさん考えて、友達と話したくなって、ノートにも書きたくなるんだと実感しました。

そのためには、①課題が子ども達にとって自分のものになること

②話し合いを焦点化させること

③がんばったことや力が伸びたことを実感させること

が大切であると思いました。

※授業研究の日程は、今週中に決まる予定です。

チームHANAWA

NO. 5

文責： 研修主任

14学級の校内授業研究会を終えて・・・

今日で、全クラス1回目の授業研究会が終了しました。先生方、教材研究や授業、他の学級のサポートと本当にありがとうございました。学級の子供達のために手立てを考えたり、板書や掲示を工夫したり、先生方の真剣な姿勢がお互いに刺激となり、高い意識で研修に臨んでいます。また、他のクラスの授業のために、教材文を印刷してくださったり、模擬授業に参加してくださったり、お互いによいつながりの中で授業研究を進めることができました。全員で同じ目標に向かって確実に進むことができています。感謝、感謝です。でも、無理はしないでくださいね。大変なときは声に出してください。11月21日の公開授業、そして子供達の学力向上のために、みんなで力を合わせて一步一步進んでいけたらと思います。これからもよろしくお願いします。

14学級の授業から見えてきたこれまでの成果と、今後の授業につなげていきたい課題についてまとめます。

国語科



6/12	3年2組	読んで感じたことを発表しよう「もうすぐ雨に」
7/5	2年1組	本はともだち「ミリーのすてきなぼうし」
	5年1組	本は友達「千年の釘にいどむ」
9/19	4年2組	調べたことを整理し、発表しよう「だれもが関わり合えるように」
9/29	2年2組	音読げきをしよう「お手紙」
	5年2組	考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう「明日をつくるわたしたち」

国語科の授業から

成果

- 子供達の表情がよく、一生懸命学習している。
- 発問・指示は、言葉を選んで分かりやすい。
- 板書が工夫され、学習していることがよく分かる。
- 友達の考えを聞いて、つなげようとする姿がたくさん見られた。
- 学習のねらいを達成するために、細かな手立てが工夫されていた。
- 友達との交流を通して、自分の考えに加筆・訂正できている。
- 子供達の学びを丁寧に見取り、話し合いの中で意図的指名に生かされていた。



今後につなげていきたい課題

◆ 学習課題

- ・子どもにとって**解決（追究）する価値**がある課題を設定したい。
- ・簡単すぎず、努力しがいのある課題を設定したい。

◆ 自力解決

- ・全員が考えをもてる**手立て**と**時間**を確保する。

◆ 一人一人の子の学びを見取る

- ・どのように考えて学習を進めているか。
どこでつまづいているか。
- ・励ますことは、**「方向を示す」+「認める」**ことである。

◆ 共有・吟味（「授業をつくる16の視点」P32～を参照）

- ・共有とは・・・思考の過程や思考の結果などについて、互いに同じイメージを持ったり理解したりすること。
- ・話し合いでは、**共有させたいことの焦点化**を図る。
- ・吟味の場面では、「考え・意見」「根拠」「理由」のいずれかについて検討する。



授業では…

一人一人が**自分の考え**をもつ。

↓

友達の考えなどを**共有**する。

↓

自分や友達の考えの中から、よりよいものを**吟味し合い、自分の中で再構成**する。

↓

最後に、**自分の言葉でまとめる。**

吟味の場面では、先生が出る。

学びを見取る。
意図的に引き出す。
全体にふる。全体に広める。

◆ まとめる

- ・最後に、必ず学習をふり返る時間をとる。（「何を学習したか。」「どのように学習してきたか。」）
- ・**「まとめ」と「感想」**を別のものとしてとらえる。
「まとめ」・・・分かったこと
「感想」・・・友達の考えのよかったところ、考えを聞いて分かったこと
- ・思いを100%表現するためには、語彙が必要。そのために、言いたいことをもっともっと表出させる活動が必要。

◆ その他

- ・読書の習慣化
- ・辞書の活用



算数科



6 / 12	4年1組	がい数
	かがやき	ひき算
7 / 5	3年1組	あまりのあるわり算
	6年1組	速さ
9 / 19	6年2組	円の面積
	なかよし	ひき算、かけ算
9 / 29	1年1組	たしざん
	1年2組	たしざん



算数科の授業から

成果

○ 特別支援学級の授業から

実態に合わせた教材提示や学習の進め方で、意欲を高めながら、スモールステップで学習が進んでいた。他の学級の子ども達へも通じる基本的な手立てがいろいろ見られた。

- 課題に対する意欲が高く、気づいたことをつぶやいたり考えたことを一生懸命ノートに書いたりしていた。
- 隣同士の話合い、教え合いが効果的だった。
- 数直線や図を活用して考える子どもが多くなっている。
- 1年生から「はじめに・つぎに・さいごに」という言葉を使って考えを説明できている。
- 板書が工夫され、思考の流れが分かりやすい。
- 「まとめ」を書いて、習熟問題を解くまでの授業の流れができつつある。



今後につなげていきたい課題

◆ 学習課題

- ・「できる」「できる」「あれ？」で、**子ども達の課題解決意欲**を高める。
- ・「めあて」と「まとめ」が合っていれば、子どもの言葉がそのまま「めあて」になっていってよい。
- ・今までの学習との違いなど、**気づき**を子ども達から出したい。
- ・**子どもの問い**を全体に返して、共有化を図ることで個人差がなくなる。

◆ 自力解決

- ・課題を自分のものにできると、主体的な学習につながる。
- ・その子に応じて、図、具体物、ブロックなどを操作しながら考えることも必要。



◆ 一人一人の子どもの学びを見取る

- ・ 子どもの思考・つまずき・実態によりそって授業することが大切。
- ・ 自分の考えをノートに残せるように、ノートの指導も行う。
- ・ 「どうですか。」「いいです。」からの脱却・・・一人一人がどう考えているかを見取る。

◆ 共有・吟味

- ・ 説明・・・言葉や式、図などを連動させながら説明する活動を行っていきたい。

操作しながら説明する——操作があれば、理解が深まる。

みんなで学び合うことを意識——不足分は他の子どもへ（みんなでつないでいく）

- ・ 思考過程を全体で共有するには、問い返しを工夫する。

《問い返しの例》 事実「どうのことですか」

方法「どのように考えたのですか」

理由「どうしてそうなるのですか」

・ 話合いのコーディネート

- ・ 子どもの考えを引き出し、つなげる支援
- ・ 問い返しやゆさぶりなどの働きかけ
- ・ 話合いに全員を参加させる姿勢



みんなで考える・・・だから、楽しい

◆ まとめる

- ・ どのような「まとめ」がよいか共有する。（先生と一緒にまとめる。まとめ方が上手な子を紹介する。）
- ・ 普段から意識して、説明する力・文章を書く力を身に付けさせていく。

◆ 習熟の時間

- ・ 習熟の時間は、必ず確保する。
- ・ 中・上位を伸ばす適用問題も考えたい。
- ・ 定着させるため、いろいろなパターンで練習していく。



秋田県の授業改善から

○ゴールから授業を構想する。

○子どもの姿を中核に、授業をつくる。

○自力解決は、学び合いに向かう準備のための時間である。（大切なのは、自分の立場をはっきりさせること。）

11月21日(火) 研究公開に向けて

考える 考える 本気で考える・・・ そして、深い学びへ

スポーツでも勉強でも、本気になった時に今まで以上の力が発揮できます。授業で、子ども達を本気にしたいなあといつも考えています。本気になったときこそ、たくさん考えて、友達と話したくなって、ノートにも書きたくなるんだと子ども達の姿から感じました。

そのためには、①課題が子ども達にとって自分のものになること

②話し合いを焦点化させること

③がんばったことや力が伸びたことを実感させること 大切です。

子ども達が確かな学力を身に付けられるように、今後も、みんなで力を合わせて授業の質を高めていきましょう。よろしくお願いします。

チームHANAWA

NO. 8

文責： 研修主任

研究公開に向けて そして 学力向上に向けて

公開に向けての授業案作成、お疲れ様です。職員室で「もっと子どもたちの意欲を高めたいんだけど…」という声が聞こえてきたり、校長室からは「この時間に身に付けさせたい力は…」と熱い会話が聞こえてきたり、先生方が授業の質を高めようとがんばっていることが伝わってきます。あれもこれもとやらなければならないことが次々見えてきますが、チーム HANAWA で力を合わせて、がんばりましょうね。一人で無理はいけません・・・みんなで助け合っていけたらと思います。

公開に向けて 確認したいこと

1 学習のきまり（学習用具の準備など）は、定着していますか？

- ・ 細かな指示が減り、大切な学習に集中できます。
- ・ けずった鉛筆でていねいに字を書くことができると、学習への意識も高まります。

2 学習の始まりと終わりの時間を意識していますか？

- ・ 「時間通りに始まり、時間通りに終わる」公開授業を想定して、今から、学級の子どもたちと授業のリズムをつくっていきましょう。

3 公開授業で自分の学級のどんな姿を見せますか？

- ・ 「課題に向かって一生懸命学習する姿」「友達の意見を聞きながら、考えをつないでいく姿」「分かったことを自分の言葉でまとめる姿」・・・
今日の授業、明日の授業と一日一日少しずつ育てていきたいですね。大切なのは、先生方の意識です。

授業の質を高めるために

1 一人一人の子どもたちの学びをもっともっと見取る。

飽きてる子、分からないままじっとしてる子、大事なことに気づいているのに発言できない子など「一人一人の子どもたちが今何を考えているのか」に目を向けてあげましょう。
「先生の都合で動かしてしまうと、子どもの思考がストップし、つまらなそうな顔になる」国語科事前研での齋藤先生の言葉です。その通りですね。一人一人の子どもの考えや思いを大切にし、うまくつないで本時の目標を達成したいですね。

2 他の先生に客観的に授業を見てもらう。

客観的に授業を見てもらうと、自分では気づかない子どもたちの学びを見てもらえます。
(子どもたちのつぶやき、つまづいているところ など)

3 公開授業に向けて、略案を書いて授業する。(ノートでも、紙でも)

今日の授業のねらいと簡単な流れを書いて授業することで、メリハリのある授業ができ、子どもたちの力も確実に伸ばすことができます。

4 「授業スタンダード」をもう一度全部読んでみる。

子どもたちの力を伸ばすためには、『地道にコツコツ』ですね。